

光プロジェクト 令和4年度 「教育学部系進学研究会」(茨城大学との連携)

○ 実施日時

令和4年12月17日(土) 13時30分～15時30分

○ 実施場所

下妻第一高校 多目的室

○ 対象生徒

本校生徒 教育学部系進学希望者 1年13名, 2年18名 計31名

○ 講師

小川 哲哉 教授(茨城大学教育学部 全学教職センター長)

教育学部学生(本校卒業生)

金子 憂未 さん(教育学部教育実践科学コース4年次)

嶋田 夏海 さん(教育学部教育実践科学コース3年次)

茨城大学教育学部の小川 哲哉 教授をお招きしての「教育学部系進学研究会」ですが、今年度は1年ぶりに対面形式での実施となりました。参加生徒31名は、それぞれが電子端末を持参して講座に参加しました。

参加生徒は、まずは小川先生の講話を通して大学における教育学のあり方を学びました。その後グループ別に分かれ、プレゼンテーションソフトを利用して、グループごとに協働してスライドを作成し、発表するというアクティブ・ラーニング型の実践を行いました。



学年やクラスを越えてランダムに編成されたグループで、初めのうちは互いに遠慮がちに見えた生徒たちでしたが、限られた時間で仕上げなければならないというミッションを前に、徐々に活発な意見交換が始め、協働作業へと移行していきました。金子さん、嶋田さんという2名の先輩も、各班の様子をうかがいながら積極的に声をかけ、後輩たちを導いてくれました。



金子さん
(左)

嶋田さん
(右)



生徒たちの
雰囲気も
少しずつ
ほぐれて
きました。

もちろん小川教授は持ち前のポジティブな姿勢で、生徒たちをぐいぐいと刺激してくださいました。生徒たちも「問題解決能力」とは何か、先生の姿勢から直に学ぶことができたのではないのでしょうか。



「はい〇時△分までに仕上げてねー」 小川教授の呼びかけに、各班のギアも上がります。

最後は各班がそれぞれにプレゼンテーションを行いました。そして、それに対する小川教授の講評はさすがに鋭いものでした。参加した生徒にとって「今後につなげるため」のご指摘を多々見出すことができたはずです。

<各班によるプレゼンテーションの様子です>







生徒たちの感想にもありますが、特に小川教授からの「オンラインと対面を分けて、二分法で考えるのではなく、すべての授業がオンラインと対面のハイブリッドであるべき」というご指摘は、現場の教員にも刺さるご指摘でした。

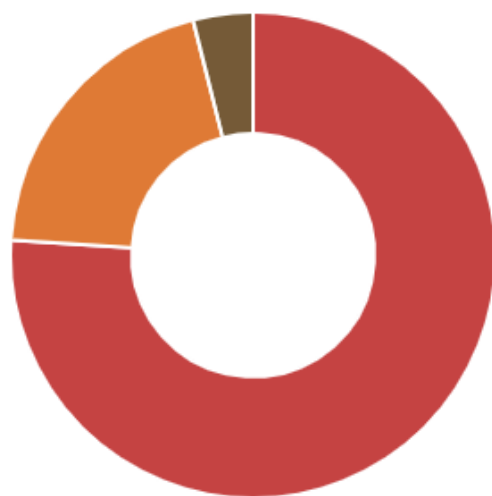
時間的・環境的な制約の中、ご指導をいただいた小川先生、そして協力して頂いた大学生（本校卒業生の金子さん、嶋田さん）の丁寧で的確なお導きに対し、心から感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

＜アンケート結果から＞

設問1 この事業に参加した理由は何ですか。

- ・ 将来教師になりたいと思っているから。
- ・ 教育学部への進学を考えているから。 （以上2つが圧倒的に多かった）
- ・ この会に参加して、少しでも多く教師について知りたいと思ったから。
- ・ 茨城大学教授の先生の話聞いてみたかったから。
- ・ 「あのとき参加していれば」と後悔しなかったから。
- ・ 話を聞いてなにか学部や大学の選択のヒントになると思ったから。
- ・ 茨城大学に興味があるから。 ・ 小学校の先生になるのが将来の夢だから。
- ・ 憧れの先生がいた ・ 教育学部について少しでも知りたかったから
- ・ 教師に必要な資質を理解する為。
- ・ 去年参加して、自分にはない考えをたくさん聞けたから。

設問2 今回の事業への参加は、あなたにとって意義がありましたか。



選択肢 1	19人(76%)	大いに意義があった。
選択肢 2	5人(20%)	意義があった。
選択肢 3	1人(4%)	どちらともいえない。
選択肢 4	0人(0%)	あまり意義を見出せなかった。
選択肢 5	0人(0%)	意義を見出せなかった。

設問3 今回の事業に対する感想や、講師の方々へのメッセージを記述してください。

- ・ 他学年、他クラスの人と交流するのは緊張したが、班の人たちと意見を出しあってまとめられて楽しかったです。また、班で困っている時に教授や学生さんが優しく声をかけてくださり、話がまとまってすごいなと思いました。
- ・ 今回学んだことを糧として、発表の場などで活用して行きたいです。話もとても面白く、またお話を聞く機会があればぜひ参加したいです。
- ・ 周りをみて話したり説明することは簡単そうで簡単ではないことだと思うから、すごいなと思いました！
- ・ 今回学んだことを参考に将来の進路を決めたいと思いました。ほんとうにありがとうございました。
- ・ 実際に教員になるために必要な知識や技術をグループのみんなと話し合うことができてよかった。
- ・ 小川先生の話聞いて、大学のホームページやパンフレットだけでは分かりきれない学部の特徴等を知ることが出来て、とてもいい経験になった。またグループ活動を通して、2年生の先輩が情報の授業で学んだことを使っている姿を見て、自分も大学や社会に出た時のことを見据えて、高校の授業も真剣に取り組むべきだと改めて思うきっかけにもなった。
- ・ 教育学部では学習だけでなく子どもに対する接し方や子どもの成長に繋がるような教育を学習していることが分かった。
- ・ これからの時代において先生に必要なスキルとは何かを考える良い機会となって、とてもいい体験ができた。
- ・ 今日の教育の現状について知ることができたり、色々な話を聞くことが出来てより一層進学を考えたいと思いました。

- コロナと考えるとマイナス意見ばかりになってしまうなか、どうプラス思考でいられるか、どのような先生が求められているのか考える有意義な時間になりました。オンラインと対面別々に見てはいけないというすこし厳しめ？な言葉も私の班にはありましたが、たしかにそうだなと思いました。生徒からすると「オンライン」というと「対面」と別と考えてしまったという所もあります。そんななかでもどちらでも対応できる先生が求められていると思いました。本当にありがとうございました。
- より教育学部を目指す志がたかまりました。ありがとうございました
- 他の職業と同じく、教師は時代の変化に対応しなければいけないと学ぶことができました。ありがとうございました。
- やっぱり私にはまだコロナ禍における一時的なものだという固定観念があり、どうやってリモート授業を楽しくするかの方に気を取られてしまっていることに気がつくことができた。これから先、先生がコンピューターを使いこなすだけでなく、どうすれば生徒がコンピューターを使いこなせるようになるかを中心に考えていくことが大切であるのだと思った。たくさんの情報に触れていろんな見方を知ろうと思った。